

活動名	団体名
レクリエーション及び野外活動に関する技術の普及 並びに指導者・ボランティアの育成、技術向上を目的 とした研修講座	施設ボランティア野外活動研究サークル「くわがた」
	地 域
	広島県広島市
	代 表 者
	代表 佐々木 悠
	支援金額
	10万円
活動概要	
<p>くわがたは、くわがた内の親睦を深め、一人ひとりのスキルアップを目的に闊歩、自主研修を行っている。闊歩では、自然を3H(Hand Head Heart)で感じ、長い距離を交流しながら歩く活動を行った。自主研修は2回行い、夏の生物や昆虫についてや応急手当に関する知識を学ぶ活動を行った。また、秋には『くわがたファミリーキャンプ』を主催し、ウォークラリーや野外炊飯を行った。秋を感じながら、家族内の交流・他家族との交流を深めることを目的に計画した。</p>	
<p>◆実施時期: 《闊歩》平成20年4月29日 可部駅～飯室を歩く 《くわがた自主研修》①平成20年7月19、20日 ②平成21年3月8日 広島市青少年野外活動センター・こども村 《くわがたファミリーキャンプ》平成20年11月15日 広島市青少年野外活動センター・こども村</p>	
<p>◆参加人数: 《闊歩》くわがた17名 職員 1名 《くわがた自主研修①》くわがた17名 ボランティア講習生4名 職員1名 《くわがた自主研修②》くわがた17名 《くわがたファミリーキャンプ》くわがた18名、11家族(大人13名、子ども19名) 参加総人員 約107名</p>	



《闊歩 コースの途中の河原で記念撮影》



《くわがたファミリーキャンプ集合写真》



《自主研修 応急手当の講習会》



《くわがたソング練習風景》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ① くわがた同士、職員さんとの交流を通して、親睦が深まり、今年度の良いスタートが切ることができたと感じた。また、私たちくわがたは、主催事業の中で子どもと関わることがある。自然の中での活動を子どもと行う際に、今回の闊歩で自然とたくさん触れ合って得た知識や体験が活かされるのではないかと感じた。
- ② 1日目に行ったレクリエーション講座や野外炊飯を通して、メンバー同士がしっかりと話ができるので、仲もより深まり連携も高まったと思う。2日目の講座では、虫嫌いのメンバーも多くいたが、とても親しみやすい内容だったので、楽しく学ぶことができた。また夏には、野外活動センターが主催されている事業の中で、水生生物についてのプログラムがあり、この講座で得た知識を子どもたちに伝えることができた。
- ③ 応急救手当の講習会では、ケガなどに対する知識が高まり、それを活かそうという意欲も出てきた。私達の活動では、子どもたちが親から離れて活動するということで、特に安全面について気を使っている。応急救手当をしなければいけない場面に出会った時、この講習会で学んだことを思い出し、落ち着いて対応したいと感じた。また、CDづくりでは、歌の力により参加メンバーの親睦がより深まった。さらに次世代へもつなげていける素晴らしいものができ、今年度を締めくくるにふさわしい良い主催となつた。
- ④ くわがたの活動の中では、家族や保護者と関わる経験が少ないので、このくわがたファミリーキャンプはくわがたにとって良い経験になった。参加してくださった家族をみて、改めて家族の良さというものにも気づけた。
- ⑤ 普段の生活の中で、家族と一緒に野外炊飯などをする機会があまりないため、このくわがたファミリーキャンプで、家族でいろいろな話ができるようだった。

◆苦労した点

- ① 闊歩を企画したメンバーの中に、車を持っている人がいなかった。そのため当日、コースで何かが起った場合、救護車がないので、どう対応していくかを考えるのに苦労した。結局はタクシー会社にお願いをし、緊急の場合は、タクシー会社に連絡をするようにした。また、闊歩を企画したメンバーで事前にコースを歩いた際、コースの中に公共のトイレが少なく、トイレ休憩ができないことがあった。参加者が楽しく歩くためにトイレ休憩できる場所を確保することが必要だと思ったので、この問題を解決するにはどうすれば良いか方法を考えることに苦労した。結局は、コースの途中にある集会所を借り、トイレ休憩ができるようにした。
- ② 白紙の何も無い状態からひとつの主催事業を作り上げていくことは、想像以上に大変なことだった。まずは自主研修で何を学びたいかを決め、次に講演を誰に頼むかでとても迷った。ある程度方向性が見えてきたらミーティングも進むようになってきたが、CDづくりや予算のたて方など初めてで分からぬことも多く、行き詰ることが多々あった。特に苦労した点は、全体を見通しての計画作りだった。同じ時期に他の主催が重なるために忙しくなることが分かっていたので、早めに活動を始めたつもりだったが、実際は自主研修本番までの最後の一週間でバタバタと焦って準備することとなった。一ヶ月単位での大まかな計画は立てていたが、もっと細かく、先を見通しての計画作りをするべきだと痛感した。
- ③ くわがたファミリーキャンプの時期に他の主催がたくさん重なっており、多忙な中の準備になった。またくわがたは学生と社会人であり、予定が合わず係内でのミーティングができなかったり、集まって作業することができなかつたりした。

◆今後の課題・発展の方向性

- ① 今回の闊歩で、新会員と前年度からの会員、そして職員の交流ができ、仲が深まつたので、今年度の活動が期待できるものになった。しかし、くわがた会員の約半数しか参加できていなかったという課題があった。たくさんの人に参加してもらうためにも、もっと早くから日程を決め、呼びかけを行っていく必要があると感じた。
- ② 今回は昆虫に関する講座であったが、植物などの講座も定期的に行い、さらにスキルアップして活動に活かしていきたいと思った。今後の課題としては、このような講座や研修は単発的なものになりがちなので、連携をとって計画的に行っていけるようにしたい。
- ③ 企画したメンバーの中での仕事の割り当てが不平等になってしまった。今後の課題として、主催担当の全体ミーティングなどで、仕事内容をなるべく明確にし、仕事を平等に割り当てるようにしたい。また、個人個人の得意なことや苦手なことを考慮して仕事を分担することが理想である。
また今回の講演で応急救手当について学んだので、今後の主催や普段の生活の場で役立てることができると感じた。
- ④ 今回はくわがた単独主催ではなく、広島市青少年野外活動センター・こども村との共催という形にしていただいた。そのため今回は「広報」で宣伝することができ、結果たくさんの家族の参加へと結びついたと思う。そして少しでも多くの人に「くわがた」の名を広めることができたのではないかと感じた。

◆活動を終えての感想・意見等

- ① 企画をするにあたって、どのようにすれば、親睦が深まるか、どのようにすれば自然と触れ合えるか、コースは安全であるか、などたくさんのことを考えた。この点がとても苦労したが、苦労した分参加者同士の親睦も深まつたと思うし、楽しく自然とも触れ合える企画をすることができたと感じた。自分たちのスキルアップにもなり、また参加者の方の笑顔もたくさんみみることができる主催だったので、本当によかったです。
- ② 今回の自主研修は新たに得たことが多くあったように思う。メンバーの素顔、野外炊飯の新メニュー、昆虫に関する知識など、これから活動に活かしていくことができるものばかりだった。メンバーのスキルアップにもつながり、よかったです。
- ③ 最初は何も無いところから始まり、本当に自主研修を行なうことができるのか不安だらけだったが、メンバー全員で頑張って作り上げた分、参加してくれたくわがたメンバーにも楽しんでもらうことができて本当に良かった。
講演を快く引き受けてくださった中村さんや、野外活動センターの職員の方々にもとてもお世話になった。この自主研修を作り上げていく中で、一人ではできそうにないことも、仲間と力を合わせることで達成できることを知った。また、それを達成できた時の喜びを感じることができ、自分自身、ひとまわり大きく成長できたのではないかと思う。ただ参加するだけの時とは違い、自分たちで作り上げていく大変さを知った分、たくさんのこと学ぶことができた。そして、この自主研修は特別思い入れの深いものとなつた。これからもこの経験で得たものを大切にしていきたい。
- ④ 参加されたどのご家族にも「楽しかった」と笑顔で帰っていただけたことが、とてもうれしかつた。当日は、とても良い天気で、紅葉を楽しみながら充実した1日を過ごすことができた。私たちくわがたにとっても、普段の主催とはまた少し違つたキャンプで、また一つ成長することができたと思う。参加してくださったご家族に感謝の気持ちでいっぱいである。